



林野庁北海道森林管理局

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

発行日 2008/12/05

# インフオメーション

当センターは国有林をフィールドとして北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取り組む NPO 等の活動支援や森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導などを行っています。

## 森林環境教育の取組

### 科学の祭典で「樹木

### クイズと紙すき」

釧路市こども遊学館では、子ども達に科学のおもしろさを知ってもらうため毎年文化の日に、「青少年のための科学の祭典釧路大会」サイエンス屋台村を開催しています。

第九回を迎えた今回は、教員、中学・高校の科学部の生徒、大学の研究室、企業、NPO等が、科学に関する二十五の様々なブースを出展。当センターでも、樹木の標本などから樹名を考えるクイズと牛乳パックを原料に紙を作る紙すきブースを出展しました。



(木の皮と葉とタネがヒント)

樹名クイズでは、親子で挑戦する微笑ましい光景が多くみられました。紙すきでは、赤・青・黄色の絵の具を混ぜて、思い思いに色づけした紙や、紅葉の落ち葉を紙の中に入れた葉書作りに挑戦していました。特に紙すきは

他の科学ブ

ースと違っ

て自分で簡

単に物を作

り出せるこ

となどが好

評で閉会ま

で子ども達

の順番待ち

が続きまし

た。

### 青葉小学校の生徒

### さんが訪問学習

十一月二十一日、釧路市青葉小の五年生二名が校外学習の一環として「森林の良いところと森林害虫」の話を聞きたいとのことで訪れました。

始めに木の名前や森林の役割についてパンフレット等を用いて説明し、それから、森林に被害を与える虫の話をしました。

最後に「森林の一番良いところは、生き物の種類も多く、たくさん住んでいること。害虫というのは人間から見た呼び方であって、虫にとっては迷惑なこと、木も虫もお互いに助け合いながら森林の中で暮らしているんだよ。」とお話しました。生徒たちは、色んな種類の木のタネ



(パルプ液を均一に入れてね)

模型を珍しいと言ったり、写真に撮ったり、釧路の森林面積はどれくらいあるのかなど質問していました。



(木のタネの樹脂製模型)

### お知らせ 平成二十一年度 国有林モニターの募集

国民の皆様は国有林の役割や現状についてご理解いただくとともに、国有林野の管理経営に国民の皆様の声を反映させていくことを目的としてモニターを募集しています。

募集期限は平成二十一年二月二十七日までです。

詳細については、国有林モニター担当者までお問い合わせください。

T 064-8537 札幌市中央区宮の森三条七丁目七十番

北海道森林管理局国有林モニター担当(相澤・齋藤)

電話 011-622-5229

ファクス 011-640-3108

Eメール h\_gyomu@rinya.maff.go.jp

# 自然再生事業の取組

平成二十一年度

エゾシカライト

センサスの実施

雷別地区自然再生事業では天然更新木や植栽木の成長に影響するエゾシカの生息動向について把握するため夜間にライトを照射しながら林道や周辺の農道を走行し、エゾシカの発見頭数をカウントするライトセンサス調査を実施しています。

今年の調査では10km当たりのエゾシカ発見頭数が平均十四頭となり、昨年度に比べて大きな変動はなく、雷別地区のエゾシカ生息密度は概ね落ち着いた状況にあると考えられました。

なお、エゾシカの発見頭数が10km当たり二十頭を超えると稚樹の成長に影響が始めるとされており、今後も随時状況を把握する必要がありますが、考えられます。



(ライトセンサスの様子)

## 雷別ドングリ倶楽部の活動

師走を目前にした十一月二十九日(土)、標茶町と厚岸町の両町にまたがるパイロットフォレストで、会員十名が出席して簡易炭窯を使用し、炭焼きとブリキ缶での炭作り体験、アカエゾマツ人工林の除伐作業を体験しました。



(炭焼き・煙の温度測定中)

日頃は標茶町雷別地区の自然再生事業地で活動しているドングリ倶楽部ですが、今回は炭焼きが体験できるよう四基の簡易炭窯が設置されているパイロットフォレストで実施しました。

炭焼きでは炭窯二基を使用し、一基はカラマツを、もう一基はシラカンバやイタヤカエデの広葉樹を炭材として焼きました。着火してから約四時間ほどで火止めをしましたが、残念ながら一日は窯を冷まさないと炭を取り出せないことから、来春の活

動時に炭焼きすることになっています。

炭作りは、会員が持ち寄った栗のイガイガやオウバユリの実、マツカサなどをブリキ缶で焼きました。また、カボチャ二個を炭窯に入れ炭材と一緒に焼きました。カボチャの出来映えは見る事ができませんでしたが、ほかの炭は栗のイガイガやトドマツの葉っぱの小さなところまできれいに焼き上がりました。

アカエゾマツ人工林では、枝葉が混み合って日光が入らずに下層植生が生えていないところで、植栽木を間引きする除伐作業を行いました。初めに伐採の方法などを確認し、安全に留意しながら実施しました。二十本程度しか伐採できませんでしたが、春には明るくなつた林床に植生が復活することを願っています。



(クリとクルミの実の花炭)

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

〒085-0825 釧路市千歳町6-11

TEL 0154-44-0533 FAX 0154-41-7305

URL [http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/fc/kushiro\\_hp/](http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/fc/kushiro_hp/)

E-mail [h\\_kushiro\\_f@rinya.maff.go.jp](mailto:h_kushiro_f@rinya.maff.go.jp)